

## 令和4年(2022年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：群馬県川場村

協定締結日：平成24年(2012年)1月20日

活動状況：継続中

連携先窓口：川場村副村長 宮内 実 様

活動資金：補助金 および個人予算

担当教員(所属)：入江 彰昭(地域創成科学科)

活動体制(単位)：大学

関連教員(所属)：竹内 康・竹内将俊(地域創成科学科)

活動目的：

- (1) 地域交流実習・総合実習の教育指導と学習フィールド提供
- (2) 世田谷区民健康村事業子ども里山自然学校の教員学生参加
- (3) 世田谷区民健康村事業里山塾の教員学生参加
- (4) 学生インターンシップの実施
- (5) 世田谷区・川場村縁組協定40周年記念事業ワークショップの教員学生参加
- (6) 冬×ふじやまプロジェクトの教員学生参加
- (7) 卒業研究等の教育指導支援
- (8) かわば森と未来協議会活動イベント教員学生参加

活動内容・成果：

- (1) 地域交流実習・総合実習の教育指導と学習フィールド提供 コロナのため実施せず。
- (2) 世田谷区民健康村事業子ども里山自然学校の教員学生参加 実施した。
- (3) 世田谷区民健康村事業里山塾の教員学生参加 実施した。
- (4) 学生インターンシップの実施 実施した。
- (5) 世田谷区・川場村縁組協定40周年記念事業ワークショップの教員学生参加 実施した。
- (6) 冬×ふじやまプロジェクトの教員学生参加 参加した。
- (7) 卒業研究等の教育指導支援 実施した。

「農家からみた川場田園プラザの役割と課題に関する研究」

地域デザイン学研究室 48719037 久保田陸斗(指導教員、入江彰昭)

(8) かわば森と未来協議会活動イベント 教員学生参加 実施した。  
課題・改善点：活動時の日程。

## (2) 世田谷区民健康村事業子ども里山自然学校の教員学生参加

2022年度 健康村里山自然学校

### 子ども里山自然学校(夏の教室)実施要項

2022年8月8日(月)~11日(木) 3泊4日

#### 里山の自然に学ぶこと

自然とは何だろうか？一般に人の手が加わっていないそのまゝの状態ということですが、人の手が加わった里山や、スギやヒノキを植えた森林も自然とすることもあります。また、家の周りや公園などにある雑草も自然ということもあります。

川場村の里山自然学校は、川場村の人々が暮らしや生産(ものづくり)のために、大切に活用してきた森や川がある丘、そして田畑など、オール川場の中で、思いっきり里山体験をする楽しい自然学校です。

川場村の森には、色々な昆虫や動物が住み、色々な植物が生えています。また、武蔵山を源とする湧きかな川にも沢山の虫類や魚類が泳ぎ、鳥たちを遊ばせてくれます。そこでの動物の姿は、すべて何分かの時でなくなり、お互いが助け合い、それぞれの役割をこなしながら元気に里山をつくっています。

川場村の自然に全身で触れながら、元気な里山とは？助け合いとは？役割とは？について、お兄さんやお姉さん、おじさんやおばさんと一緒に、怪我などないよう気を付けて、楽しく学びましょう。



健康村里山自然学校校長 宮林 茂幸

#### 実施要項

- 1) 実施日 2022年8月8日(月)~11日(木) 3泊4日 (朝9時/朝食3時・昼食3時・夕食3時)
- 2) 受付先 世田谷区民健康村なかのビレッジ 〒378-0103 群馬県利根郡川場村中野626  
お電話は和歌となります。
- 3) 集 合 8月8日(月)  
世田谷区参加者 8:00まで世田谷八幡宮駐車場集合(8:15出発)  
※世田谷八幡宮駐車場は、車道世田谷線 駅南 徒歩1分  
川場村参加者 11:30までなかのビレッジフロントに集合
- 4) 解 散 8月11日(木)  
世田谷区参加者 17:00ごろ世田谷八幡宮駐車場集合予定  
川場村参加者 13:30ごろ、なかのビレッジにて現地解散  
■社員ともにスタッフが1人に乗車いたします。  
■駐車スペースの関係上お車の返送はご遠慮ください。  
■事前予約は、道路の混雑状況によって到着時刻が前後する場合がございます。  
※送迎車の1台の乗員については、厳禁乗員にて、おおよその位置が確認できます。  
■仕様のバスにつきましては、軽便交通株式会社貸切バスとなります。
- 5) 参加費 世田谷区参加者参加費/26,740円 (内訳:宿泊費・食事代・交通費、その他材料等含む)  
※参加費につきましては、同封の申込用紙にて7月8日(金)までにお振込み下さい。  
川場村参加者参加費 /15,740円 (内訳:宿泊費・食事代、その他材料等含む)  
※参加費につきましては、同封の申込用紙にて7月8日(金)までにお振込み下さい。  
川場村の現地宿泊は、7月8日~11日の間の希望日時を直接電話でご連絡ください。  
連絡先/なかのビレッジ 0278-52-3321
- 6) 備 考 お子様の体調不良やか一怪我等が発生した場合、以下の病院対応となります。  
利根中央病院 0278-22-4321 国立沼田病院 0278-23-2181  
内田病院 0278-23-1231 群馬県立小児医療センター 0279-52-3551
- 7) 体 制 ■ スタッフ 株式会社世田谷川場ふるさと公社、世田谷区職員、川場村職員、東京農業大学教員、ほか(実施期間中の運行・調整・緊急対応等)  
■ リーダー 東京農業大学学生  
(参加者のリーダーとして、安全面、生活面、プログラムサポート等を行います。)

#### 子ども里山自然学校プログラム(予定)

※天候などによりプログラムが変更する場合がございます。

	8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)
午前	世田谷区参加者/ 世田谷八幡宮駐車場 なかのビレッジ着 川場村参加者/ なかのビレッジ集合	友好の森ハイキング	個別ミーティング	部屋の清掃・片付け お土産お買い物
午後	仲間を知ろう! 個別レクリエーション	休憩 謎のつかみ取り	休憩 川で遊ぼう!	開校式 川場村出発 ※川場村参加者解散
夜	ナイトハイク	夕涼みプログラム	キャンプファイヤー	世田谷八幡宮駐車場 世田谷区参加者 17:00ごろ解散



## (3) 世田谷区民健康村事業里山塾の教員学生参加



### 2022年11月の里山塾

里山塾 2022年11月25日 New!

おとなの里山コース(2022年11月19日~20日)

今年度「おとなの里山コース」最終回は、一面に広がるスキの原っぱで、茅葺き屋根の材料を刈り取る「茅刈り」作業です。大変な作業ですが、刈り取っていくうちに景色が開けてくるため、作業中には達成感や爽快感も味わえます。また、作業中に「カヤネズミ」の糞を見つけました。日本最小のかわいらしいネズミは、スキの原っぱが棲み処なのですが、人々が放置するとやがては森になり、生息できる場所が失われてしまいます。年々、このカヤネズミの糞を見かける機会が多くなってきていますので、この取り組みが貴重な生き物の棲み処を守ることに繋がっているのです。



## (4) 学生インターンシップの実施

株式会社 世田谷川場ふるさと公社  
 なかのビレッジ 所長 岩瀬 篤司 様  
 ふじやまビレッジ 所長 桑原 康弘 様

令和4年7月吉日

東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科  
 学科長 本田 真樹 様



### 令和4年度学生インターンシップの受入れについて (依頼)

謹啓  
 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本学の教育・研究活動へのご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。  
 さて私共、地域創成科学科では地域の行政、農業、生産・製造、流通、土木、緑化・造園、観光、各種コンサート業など、地域創成に貢献した団体・企業において研修することを目的とした「高山山村インターンシップ」を大学全体で企画・実施されているインターンシップ制度とは別途に、学科独自の授業科目として導入しております。当科目は地域における仕事と文化の結びつきや自然と共生してきた人々の営みを理解するとともに、実地での就業体験を通じて学生が自ら適性を発見し、職業観を確めるための重要な教育の機会と位置付けております。  
 つきましては、何卒、当インターンシップの趣旨をご理解頂き、本学科学学生の受入れを賜りますようお願い申し上げます。  
 末筆ながら、貴事業所の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。

記 謹白

- 1 実習先・期間 および 学生名 (詳細は学生連絡表にあります。)  
 ① 7/25 月~7/29 金 ②8/1 月~8/5 金 ③8/22 月~8/26 金  
 48720068 谷 学人 48720085 浜崎 康 48720026 江部桃英  
 48720093 堀川家日
- 2 学生より、実習開始前にはご担当の方に連絡があります。実習初日の集合時間、場所、持ち物、服装など、ご指導をいただければ幸いです。同封の学生連絡表は返却の必要はありませんので、貴社にて保存ご利用頂けます。  
 ※学生は感染症予防対策として、以下厳禁しております。  
 ・密閉・密着・密集・密接の4つの密を避け、マスク着用、手洗い、うがいすること。  
 ・実習直前直後および実習中、さらに終了後の随時の体温チェック (検温、体調) を行うこと。  
 ・卒業までではないが、実習中における体調不良、急病、及びやむを得ない事情が生じた時は、実習を取りやめ、学科担当教員及び実習先に連絡すること。  
 新型コロナウイルスの状況によって変更となる場合もございますが、どうぞよろしくお願いたします。

【連絡先】〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
 東京農業大学 地域環境科学部 地域創成科学科  
 実習担当 内田 均 E-mail : h.nuchi@nodai.ac.jp TEL : 03-5477-2688  
 実習先担当 入江彰昭 E-mail : teruaki@nodai.ac.jp TEL : 03-5477-2677

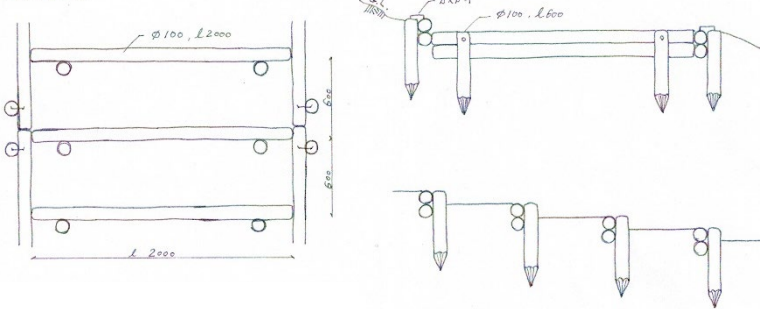
## (5) 世田谷区・川場村縁組協定 40 周年記念事業ワークショップの教員学生参加

### 世田谷区・川場村縁組協定 40 周年記念 友好の小径 (フットパス) 整備

- 1 実施日時 令和4年8月21日 (日) 午前中 (2 時間程度)
- 2 参加者 区民イベント参加者  
 班ごとに分かれて、同時進行で作業を進める。
- 3 場所 友好の森にある 森のむら 周辺にて実施する (下図内)。  
 眺望もよく移動教室や交流事業にも広く利用されている場所。  
 道の整備が十分ではないため滑りやすい。
- 4 整備内容  
 (1) フットパス入口に看板の設置  
 (2) フットパス上にガイドポスト (案内板) の設置  
 (3) 杉丸太の階段の設置  
 (4) 歩道脇に土留めの設置  
 ※ 友好の森の木材を材料の一部として活用する。
- 5 整備効果 「40 周年記念事業」としての友好の小径づくり (次の 50 周年に向けて) 移動教室や健康村のイベント等で日頃から利用ができる。



◎土留木階段工



「フットパス」とは・・・  
 イギリスを発祥とする「森林や田舎地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径 (こみち) のことです。 ~日本フットパス協会HPより~



## (6) 冬×ふじやまプロジェクトの教員学生参加



## (7) 卒業研究等の教育指導支援

### 「農家からみた川場田園プラザの役割と課題に関する研究」

地域デザイン学研究室 48719037 久保田陸斗（指導教員、入江彰昭）

#### 農家からみた川場田園プラザの役割と課題

地域デザイン学研究室 48719037 久保田陸斗  
(指導教員、入江彰昭)

##### 第1章 研究の背景と目的

川場村の主要産業施設である、道の駅川場プラザができたことにより、農村の農産業、観光業は発展してきた。しかし郊外のブランド作物や都市部からの観光などの多くのマーケットが考えられる反面、村民の日常的暮らしに貢献しているのかどうか不明である。

そこで本報告は川場村の村づくりに関する田園プラザができたことによる農家への影響や、農家が田園プラザに対してどのようなイメージを持っているのかを明らかにすることを目的としている。既存する論文からは見ることのできなかった、田園プラザが対外的な存在になるためには、田園プラザはどうすればいいか、村民のニーズなどの部分について、アンケートを用いて調査したいと考える。

##### 第2章 研究の方法

###### 2-1 研究対象地の概要

対象地 川場田園プラザ（群馬県川場町産直385）  
対象とする人 川場村在住の農家の方、ファーマーズマーケットの従業員の方

###### 2-2 調査方法

川場村農家への事前調査（ヒヤリング調査）、大調査（アンケート調査）  
川場田園プラザから採った作物物ゲータの集積

##### 第3章 調査結果

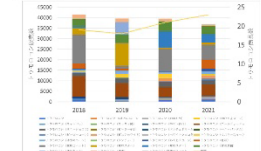
全体的に20～30代と60～80代の年齢別、学生、産直店とその他の地区の居住地域別、の4つに分けて結果の傾向を見ることが同様に示された。

全体的に見ると、田園プラザが山産品でよかつたこととして、お米さんのニーズがその場でおかせることが肯定70%、村内の農家で売込先であることが肯定80%と多く上がったため、実際に直売所に行きやすいような商品が売られているのかをみたり、その場で短絡お米さんと話せることをメリットとして感じている方が多かった。また野菜を産直店で購入しているから「田園プラザ」で買っていると答えた方は7%ととても少ないことや、田園プラザで現在行われている村民向けの施策の認知度が33%と低いことが分かった。

①年齢に分けて考察では、4～10歳のお米さんのニーズがその場でおかせること、14～19歳の商品が見えることで自給するようになったこと、どちらも30～50代の方が肯定的意見が多かった。ここから、60～80代の方よりも30～50代の方のほうが直売所でお米さんのニーズを見て、商品に「天を加えているのではないかと考えられる。

②14歳以上の商品、品種を作るようになったこと、では生計、湯城地区は肯定が48%、その他の地域は肯定が100%となり、生計、湯城地区の方々の方は産直品、新鮮な商品を作っている農家の割合が高いのではないかと考えられる。

田園プラザの産直品売場売上に関する、品種の傾向（とうもろこし、お米を以てして）



田園プラザから採った、2018年～2021年の計4年間の産直品の売上に関する傾向をグラフにしてみたところ、とうもろこし、お米もともに販売量は増加しているにもかかわらず、販売量は増加していることが分かった。新鮮な山産品として4年間でとうもろこしは12倍、お米は16倍販売されていた。

##### 第4章 結論

本研究は川場村の村づくりに関する田園プラザができたことによる農家への影響や、農家が田園プラザに対してどのようなイメージを持っているのかを明らかにした。農産物自産品でよかつたこととして、お米さんのニーズがその場でおかせることと市内の農家で買込先であることとを肯定的意見が多く上がったため、田園プラザは農家にとって、どのような商品が売られているのかをみたり、その場で短絡お米さんと話せることによるメリットが感じられていると考えられる。

また農家にとって田園プラザが持つ役割として、アンケートの結果から、道の駅に農産物も山産品でよかつたことにより農家の方が産直品を作ったり、店舗において工夫している可能性があると考えたが、田園プラザの産直品売り場にも、とうもろこしとお米の品種の傾向をみると実際に4年間の中間集積が確認されていることが分かった。

さらに販売量の増えと同時に、品種が固定されていることから少量多品種の農業に変わってきていることがわかる。またお米としては、産直店を扱ってしまっているため、田園プラザで良い商品を川場村農家から買えないことや、田園プラザで現在行われている村民向けの施策の認知度が低く半数を下回っていることから、村民の日常的な暮らしに貢献しているとはあまり期待できないと考えられた。そのため、村民向けの施策の取組が工夫されることや、お米の意見が多かった川場村農家向け産直品を安く買える村産品、未だ販路の調査を兼ねて川場村の活性化に向けていく必要があると考えられる。それらを含めていくことで都市部向けだけでなく、川場村志の発展に田園プラザが貢献していくのではないかと。

##### 引用文献

農産物産直 全県旅行（2004）道の駅における農産物産直が地域の農家に与える影響  
農業十六号 12-11 1945～948

## (8) かわば森と未来協議会活動イベント教員学生参加

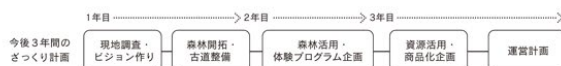
かわば森と未来協議会

### 学生サポーター募集のお知らせ



#### 11月のテーマは「川場村の森と里山の関係」

先月の第1回、第2回ワークショップでは実際に川場村の森に入って、どのような様子になっているのかを調査したり、川場村の気候についても学びました。11月は、私たちの暮らしと森と里山の関係をテーマにワークショップを行ってきたいと思います。里山の暮らしは街中の暮らしとどう違うのでしょうか？森との繋がりを一緒に探っていきましょう。



#### かわば森と未来サポーター募集要項

- 【活動場所】 群馬県利根郡川場村  
【活動内容】 川場村の森に未来を想い、森の整備や活用の可能性について考える  
【応募資格】 森林の生態、森の活用、森の未来についてなど興味がある人  
【参加定員】 10名  
【日程】 11月は2回開催予定です。

#### 第1回目 / 11月12日(土)～13日(日) 一泊二日

- 11月12日 【午後】川場村や集落を知ろう  
【夜】研修「森と動物について」講師：岸 昌孝 氏  
11月13日 【午前】ワークショップ

#### 第2回目 / 11月26日(土)～27日(日) 一泊二日

- 11月26日 【午後】川場村や集落を知ろう  
【夜】研修「森と里山について」講師：宮林 茂幸 氏  
11月27日 【午前】ワークショップ